

魚市展

戦国時代のスーパー・エキセントリック
SESSON EXHIBITION

平成14年1月26日(土)～3月3日(日)

休館日：毎週月曜日 ただし2月11日は開館、2月12日は閉館

開館時間：午前10時～午後6時(金曜日は午後8時まで)

入館は閉館30分前まで

入場料：一般800円(640円) 高校・大学生560円(450円)

小・中学生240円(200円)

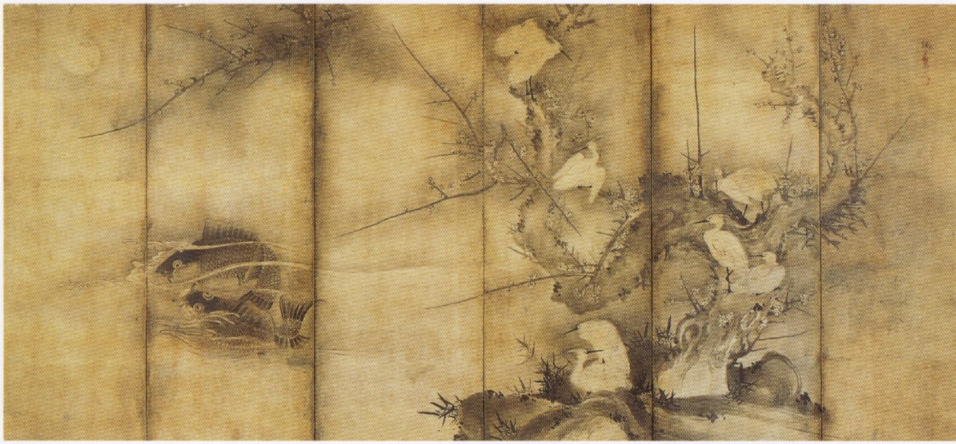
※()内は団体30名以上または前売りの場合の料金

※前売り券は、JR東日本びゅうプラザ(1月5日から3月3日まで)

千葉市美術館ミュージアムショップ(1月25日まで)等で発売

主催=千葉市美術館 協力=日本航空 企画協力=浅野研究所

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art



花鳥図屏風 [右隻] (ミネアポリス美術館蔵)



釈迦・羅漢 [三幅対のうち] (善慶寺蔵)

戦国時代のスーパー・エキセントリック SESSON EXHIBITION

雪村(せっそん)という画家の名前を聞いて、その絵をすぐにイメージできる人が、どれぐらいいるでしょうか。もちろん、日本美術史の専門家や、古美術に詳しい人なら、いくつかの絵が思い浮かぶでしょう。おぼろげな人物像も、ご存じかもしれません。でも、はっきり言っておきます。この展覧会は、雪村の「せ」の字もご存じない人たちにこそ、見てもらいたい。ともかく、400年以上前に、こんなに面白い絵を描いて、それがたくさん伝えられているんだから、まずは見てみませんか——そんな気持ちで、企画しました。もちろん、よくご存じの方にも見てもらいたいのですが…。

雪村は、16世紀、京都を遠く離れた東国に住んでいました。生没年すらわかりませんが、1500年ごろに生まれて、茨城、福島を中心に、各地を転々としたようです。世はまさに戦国時代。80余歳まで長生きして、織田信長と同じころに亡くなったと思われています。

同時代の画家に比べて、雪村の絵は驚異的にたくさん残っています。現在、200点近くもあるでしょうか。京都の画家の絵は、その多くが戦乱で焼けてしまいました。雪村は田舎に住んで、名もない人々に与えたものも多かったため、こんなに残ったかもしれません。この展覧会には、そのうち100点近くを集めました。美術館や博物館からお借りした、すでに定評あるもの。熱心な個人所蔵家からお借りした、未公開のもの。さらに、アメリカの美術館に収蔵されているいくつかの大作も、久々に里帰ります。

風の中に立ちつくす仙人や羅漢の姿には、雪村の生き方が投影されているでしょう。めまいがするような山水の景観には、雪村の頭の中のビジョンが映し込まれているでしょう。好んで描いた野菜や果物は、きっと食べたに違いない…私はそんなふうを考えていますが、どうぞ、展覧会で絵そのものと対面して、みなさん、勝手にこの画家のことをイメージしてください。面白いと思いますよ。(本展監修者・明治学院大学教授 山下裕二)

宝塔を拝む観音



催し物案内

- ◎講演会 / 2月9日(土) 午後2時より
(開場午後1時30分)
11階講堂にて 入場無料 先着150名様
「雪村画の魅力の源泉をさぐる」
講師：小川知二 (東京学芸大学教授)
- ◎本展監修者による特別ギャラリートーク
2月23日(土) 午後2時より
参加自由 (8階展示室入口にお集り下さい)
講師：山下裕二 (明治学院大学教授)
- ◎担当学芸員によるギャラリートーク
1月27日(日) 2月13日(水) 2月16日(土)
午後2時より

雪村 展

【次回展予告】
第33回千葉市民美術展覧会
3月9日～3月29日



葛、竹に蟹 (群馬県立近代美術館戸方庵井上コレクション蔵)

会期中作品保全のため展示替を行いますのでご了承ください。

【交通案内】
◎JR千葉駅東口より徒歩15分
京成バス(のりば⑦)「大和橋」下車2分
千葉都市モノレール東行前「葭川公園」下車5分
◎京成千葉中央東口より徒歩約10分
◎東京方面より車では
京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから
木更津方面へ貝塚IC下車 国道51号を千葉市街方面へ
約3km広小路交差点近く 地下駐車場あり

千葉市中央区中央3-10-8 TEL: 043-221-2311(代)
http://www.city.chiba.jp/art ハローダイヤル 043-227-8600

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

